

過去に開催されてきた神戸ビエンナーレの芸術祭としての内容の質と推進母体の活動が、2004年（平成16年）に発表された「神戸文化創生都市宣言」の内容に全くそぐわない状況であることに強い違和感を覚えてきました。2013年には一人の若者を中心に「神戸ビエンナーレを考える会」が立ち上がり、多くのアーティストやギャラリー経営者などの支持を得ながら、静かな活動を続けてきました。彼らは昨秋の第5回の結果も踏まえて、STOP&CHANGEのスローガンを掲げて、来年予定されている第6回神戸ビエンナーレを中止するか、実施するならば内容と推進体制を刷新することを求める運動を始めました。私もその運動に賛同しています。私がこの運動に賛同する理由は下記のとおりで、この運動の趣旨と一致します。これにご賛同いただければ次のいずれかの方法にてご署名いただきたく、お願い申し上げます。

- 簡単ネット署名 <http://sck.kobeart.net/change-org>
- 署名用紙をダウンロード http://gallery-shimada.com/?page_id=3491 またはギャラリー島田にて

過去5回開催された「神戸ビエンナーレ」は、“ビエンナーレ”という国際芸術祭にふさわしい内容であったとは思われません。某紙の「オピニオン」欄に「世界に類例のない国際芸術祭」と大きな見出しで、当事者の自画自賛が紹介されましたが、その根拠は疑わしいものです。私は「神戸ビエンナーレ 2015 からの考察」にその実態を分析して発表しました。そこで指摘している問題点は、以下に集約されます。

- (1) 県外、海外で活躍しているアーティストがほとんど参加していない。
- (2) 良い仕事をしているギャラリーの多くが参加していない。
- (3) 事業の収支が開示されず、事業性が疑わしい。
- (4) 外部の評価委員を加えた「検証・評価の議論」が開示されず、薄められた「検証報告書」になっている。
- (5) その「検証報告書」でも様々な改善点が指摘されているが、ほとんど反映されていない。いまだに、
 - ・ 理念が明確でなく、内容と質が乏しい。
 - ・ 組織が固定されたまま。
 - ・ 情報開示が閉鎖的。

このような状況では、いつまでたっても

- ・ 市民が誇りを持って語れるようなビエンナーレを実現することは期待できません。
- ・ 神戸の潜在的な文化の力が活かされ、さらに磨かれていくことが期待できません。
- ・ 貴重な経験が市民・企業・行政に共有されず、創造的な総合力が発揮できません。

一方、「神戸文化創生都市宣言」は、「豊かな自然と美しい都市景観を持ち、歴史を刻みながら発展してきた心かよう市民のまち」、「未曾有の震災を体験し、共有した思いやりや学んだ芸術の力を、神戸の文化として次世代に伝え、世界へと発信する」、「地域や暮らしの中で世界の文化と交流し、多様な価値観を認めあいながら、常に未来に向かっていきいきと進化するまち」と語ります。

このような宣言の主旨に、前述の私が指摘した問題は全くと言っていいほど調和していません。私は、「神戸ビエンナーレ」が本当に必要なのか、それは何のためなのか、立ち止まって考える時にきていると思います。以上の理由で、私は STOP&CHANGE 運動に賛同しています。当運動へのご協力をいただければ幸甚です。